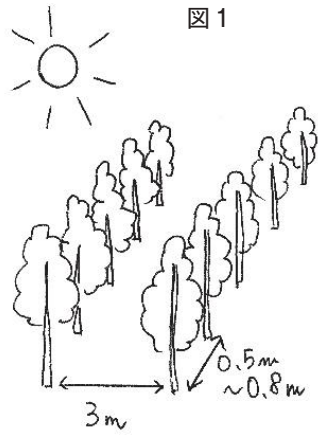


「ごーもー。新米のレキもどす
農家に関するごももも初心者視点で
ご紹介していただきます!!」

Q1. ともとも高密植わい化栽培、どんなもの??

早期多収、均質生産、省力低コスト生産を目的とした栽培様式で、一般的に市販されている棒状苗木ではなく、わい性の強いM9を台木にしたフエザー苗を使用するものです。フエザー苗とは、柔らかい羽毛状の枝を多数発生した苗のことです。

植え方に特徴があり、図1のように密集して生垣状に仕立て、その列間を3m、樹間を0.5m~0.8mに定植します。



Q2. トレリスって何??

ガーデニングで使用される格子状のフェンスから派生して、苗木などで植物の成長において誘引に使う資材のことで、パネル式の物やスティック状の物もあり、こうした資材全般を広くトレリスと呼んでいます。

当JA管内でも今期、新規導入予定の農家もある「高密植わい化栽培」について、基本的な部分の疑問を取り上げてご紹介します。

| | 10aあたり 植栽本数 | 10aあたり 収量 |
|----------|----------------|--------------|
| 丸葉栽培 | 30本 | 約3t |
| 慣行のわい化栽培 | 100本 | 約4t |
| 高密植わい化栽培 | 300本 | 約6t |

従来の栽培方法と比較すると、植栽本数・収量とも格段に多い



トレリス

Q3. 成功のポイントは何??

① 定植後3年までの株元の土壌管理が大切です。窒素肥料、樹幹下の雑草防除、灌水（水を与える事）が高密植わい化栽培の良否を分けるとされています。

② 日当たりが良いため従来のようには必要ありませんが、側枝の下垂誘引（かすいゆういん）と弱せん定、適度な着果負荷が要点となっています。樹勢を抑え、実成を良くするためには、特に定植から3年間、徹底的に針金で側枝を下垂誘引することが

しかかぶるはずは

(教壇しななちんたいす)

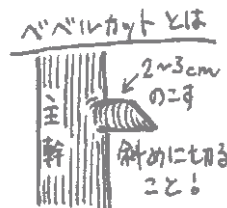
後になっての補強などは新品で準備するより大変なので、植え付け前にしっかり強度の高いトレリスを整備することが重要です。

高密植わい化栽培の

あれこれ

大切です。4年目からは基本的には直径2cmを超えた側枝は更新の対象となり、新梢が出やすいよう付け

根を斜めに切断するべベルカットを施していきます。



Q4. デメリットはあるの？

苗木の安定した供給に加えて、野ネズミ対策、凍害対策、定植後の樹相診断方法および施肥管理方法の確立が課題です。

他にも、初期費用の高さも課題で、木の数が多分苗木や支柱にかかる費用は10aあたりで230〜250万円程度と、わい化栽培と比べても数倍高く、高密植栽培の導入に二の足を踏む農家の方もいらっしゃいます。

また、干ばつへの弱さや、木の寿命の短さ（15年で改植が必要）も懸念材料です。

Q5. 導入している人の感想は？

当JAにおいては9年前に下五所で試験栽培を始めました。

園主の田澤稔美さんは「やはり収量が多い。この栽培方法は、若くて新規就農する人だけではなく、私のように勤めを定年してから農業をはじめの人にも合っているのではないか」と話してくれました。

高密植わい化栽培は、トレリスや大量の苗木、灌水設備などの初期の設備投資、15年ごとの改植周期など費用面での課題が目立ちますが、短期間で収益化が計れる点や作業効率の良さが魅力で、今まで職人技術を習得しなければ成しえなかった高品質なリンゴ作りを短期で望めることは、新規就農を目指す方や、農地の集約化を考えている方にとって、前向きな選択肢のひとつになりそうです。

今後も当JAでは、新たなチャレンジを検討される組合員の皆様の伴走支援をして参ります。農業振興課までお気軽にご相談下さい。



J A全農あおもり塩谷技術主管と剪定作業をする田澤さん（右）

